

青函トンネル建設の街から 北海道新幹線が地域につながるもの

いよいよ3月26日、待ちに待った北海道新幹線開業の日だ。かつて船でつながっていた北海道と青森。24年という歳月をかけてトンネルを掘り、さらに、28年を経て念願の新幹線が走る。私の住む道南福島町こそは、青函トンネルを掘った町だ。携わったトンネルマンたちにとってさぞ感慨深い一日になることだろう。この新幹線の通る町では、来たるべき開業に思いを馳せた人びとが街づくりを楽しんできた。私もその一人としてささやかな活動をいくつか紹介したい。

コンブ新幹線雲龍号が行く

鳴海健児さんは、青函トンネル建設の元トンネルマンの一人である。機械類のメンテナンスの達人。現在は、鉄工所を経営する傍ら、手先の器用さを生かして地元特産品の養殖コンブを町外に売り出す応援がしたいと願っている。「コンブを使って福島町を宣伝したい。社長（私）、どんなものがいいだろう」。私は、「この町の良さを一度に表現できるものをつくったらどうでしょう。せっかくだから、トンネルマンの夢を運ぶ（もうじき開業する）新幹線をコンブで作っちゃう！スルメの町だから、真上から見るとスルメに見え、パンタグラフは横綱の町（千代の山・千代の富士）のイメージ雲龍型に！」。できあがった写真を当時、JR北海道小池明夫社長さんに見ていただくと喜んでくださり、これを使って町の広報をする勇気が湧いてきた。その甲斐あって、北海道知事公館・JR北海道本社・JR函館駅・渡島総合振興局・青森市・福島町・北海道商工会議所連合会・青函トンネル記念館と各所に置かれ、地域の皆さんに楽しまれている。福島町の素晴らしさと未来への希望が詰まった夢の乗り物。当時の函館駅長さんが横綱の町をヒントに名前をつけてくれた。その名も“雲龍号”だ。

殿様街道探訪ウォーク開催のチラシを東北へ配布

自然・食。北海道には素晴らしい資源が眠っている。道南の特徴は加えて歴史。私は有志と福島町千軒で年



中塚 徹朗 (なかつか てつろう)

中塚建設(株)代表取締役社長

1958年福島町生まれ。関西大学を卒業後、中塚建設(株)入社。2003年同社社長、現在に至る。公職に一般社団法人函館建設業協会理事、福島町建設協会副会長など。



ガゴメ昆布新幹線雲龍号。高橋はるみ知事とコンブ作家の鳴海健児さん。後ろに筆者(2008年5月、道庁にて)

二回（春・秋）“殿様街道ウォーク”を開催している。自然・食（そば）・歴史・伝統（松前神楽）の四拍子そろった福島町を代表するイベント。国指定の森の名人笹島義廣さんが樹木や花の説明をし、累代の松前藩主をはじめ、円空・伊能忠敬・間宮林蔵・土方歳三・榎本武揚・松浦武四郎など錚錚たる人物が通った歴史をガイドするのが私。下山後、地元特産十割蕎麦を頂き、松前藩主が「ヨーソーロ」と愛でた松前神楽を堪能する。昨年20回目を迎えた。10年ほど前に、やがて来る北海道新幹線にあやかり、ある作戦を実行した。「東北都市部の自然愛好家をターゲットに、今から、このイベントの宣伝をしよう！」と、チラシ1万部を印刷。仙台市民に的を絞る某大手新聞の折り込みを敢行したのだ。今春のウォーク開催には、いよいよあの時チラシに興味を持ってくれた仙台市民の皆様が訪れる！そう期待し仲間とわくわくしている。

平成27年12月「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」が正式に認定された。「歴史の道」の取組も評価のひとつ。殿様街道ウォークは、これまでもシーニックバイウェイの関係者の皆さんに支えられてきたが、北海道新幹線開業と連動するタイミングでの認定を追い風に成長していければと願っている。

かがり火コンサートで小磯先生が講演

福島町の夏の風物詩「かがり火コンサート」は、伝統ある松前神楽と現代音楽の二部構成が特徴だ。楽人が最先端の現代音楽に触れ、現代音楽を聴きにきた若者が神楽に魅せられる。主催者として一番の喜びは、この場を通じてお神楽の後継者が誕生したことだ。伝統には開かれた場が大切だとつくづく感じる。去年は20年目の節目のコンサート。来春の北海道新幹線開業も祝いたい。無理難題を言って、小磯修二先生に御講演をお願いした。タイトルは「北海道新幹線と道南の未来」。先生は、「きょうこの舞台で披露される松前神楽は、福島町の文化と産業を象徴するものです。道南



御獅子新幹線

にはこうした優れた地域資源が数多くあります。開業効果を最大限発揮するために、これらを有機的に結び付け、魅力ある資源として発信していくことが道南の活性化につながるのではないのでしょうか」と説かれた。松前神楽は道南文化を象徴する一面、産業の発展を祈る側面もある。かつてニシン漁盛んなころに「ニシン漁神楽」があったように、北海道新幹線開業を祝い地域の繁栄を祈る「新幹線神楽」が誕生するのも間近かもしれない。

「御獅子新幹線」の誕生

小磯先生の「新幹線神楽」に触発されて鳴海健児さんが作ったのが写真の「御獅子新幹線」。昨年8月の「千軒そばの花観賞会」でデビューした。工事現場のモノレールの動力を利用してソバの花畑の中をゆったりと移動し、ご来場の皆さんに喜んでいただいた。

祝北海道新幹線開業で狼煙をあげる

さて、青函通じて北海道新幹線開業を記念しての動きがある。海を挟んでかつて松前藩主が参勤交代で海峡を船で渡るとき、その通信手段にのろしをあげた史実を再現しようとの動きだ。実は過去18年前に福島町では、青函フェリー就航記念にのろし台を建設してのろしを揚げていた。築立てたのろし台の立坑はそのままに、鉄板をかぶせて展望公園とし、いつか再開する日のために温存されていた。松前藩主の無事の渡航を祝った仕来りが今ここに再現されるのだ。3月26日は、命がけて青函トンネルを掘った男たちがのろしで祝福されるドラマチックな一日でもあるだろう。

ところで、こののろし台の背後にそびえるのが道南の秀峰大千軒岳だ。新幹線開業を追い風に町の有志は山麓に北海道最長の「大千軒夢の大吊り橋構想」を描いている。全国の皆さん乞うご期待!!



ブナの新緑に囲まれた春の殿様街道探訪ウォーク。説明は藁（みの）とカツラの筆者